

投資事業評価調書（継続：再々評価）

部課室名	街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	街路課長 足立眞清 (宮本眞介)	内線	4474 (4482)
事業種目	連続立体交差事業	事業採択年度	H2	現計画	再評価時点
事業名	JR山陽本線等 加古川駅付近 連続立体交差事業	着工年度	H4	総事業費 (うち補助基本) 285億円 (235億円)	369億円 (312億円)
		再評価年度	H11	内用地補償費 (うち補助基本) 75億円 (55億円)	79億円 (54億円)
事業区間	加古川市加古川町～野口町		完成予定年度	H17	H17
所在地	加古川市加古川町～野口町		進捗率 (内用補進捗率)	98%(99%)	55%(91%)
			残事業費 (うち補助基本)	15億円 (6億円)	
事業の目的			事業内容		
加古川市中心市街地の交通円滑化 東播磨地域の玄関口である加古川市の中心市街地において、鉄道を高架化することにより、関連街路整備と併せ交通の円滑化を図る。 加古川市中心市街地の活性化 車両基地跡地等を利用した区画整理事業等と一体となって中心市街地の活性化を促進する。			高架延長 L=3,330m (山陽本線 2,377m 加古川線 953m) 高架化する駅 加古川駅(ホーム3面6線) 立体交差する道路 15路線 除却する踏切 12箇所 (山陽本線 6箇所 加古川線 6箇所) 〔負担割合(補助) 国: 1/2 , 県: 1/3 , 市: 1/6〕		
社会経済情勢の変化	都市再生、都市環境改善に関する県民の関心が高まっており、慢性的な渋滞の解消及び駅周辺におけるまちづくりが急務である。				
進捗状況	平成4年度に事業認可を取得し、用地買収等に着手した。平成9年度から本工事に着手し、平成15年5月には山陽本線を高架切替した。 残る加古川線L=953mについても加古川線全線の電化とともに平成16年12月に高架切替する予定である。 平成17年度には在来線の撤去及び交差道路、側道を整備し、事業完了の予定である。				
評価視点		評価結果の説明			
(1)必要性	山陽本線の高架切替により、6箇所の踏切を除却し、踏切遮断交通量約63千台時/日を解消したが、加古川市中心市街地の活性化のためには引き続き加古川線の高架化及び交差道路等の整備による交通の円滑化、また、面整備と一体となったまちづくりが必要である。				
(2)有効性・効率性	費用便益比 B/C = 2.6 (前回評価時点 1.7) 関連街路の整備、区画整理事業及び駅前広場整備等と一体となって、加古川市中心部の交通円滑化や市街地の活性化に寄与する。 鉄道高架化に伴う高架下及び車両基地の移転により利用価値の高い土地が創出される。				
(3)環境適合性	交通渋滞の解消により大気汚染物質が削減される。 駅部では通過型エレベータ、オストメイト対応型トイレなどバリアフリー化を図る。				
(4)優先性	交通円滑化、踏切事故の解消及び中心市街地の活性化等の強い社会的要請に応えるものであり、優先性は極めて高い。				
再々評価の結果	継続	左の理由	上記理由により事業継続は妥当である。 また、平成17年度以降の残工事は仮線仮駅の撤去及び側道、交差道路の整備のみであり1年で完了することは確実であり、早期整備が必要である。		